

ワッハ上方の新たなあり方について

1 ワッハ上方の位置づけ

「大阪文化の再発見と情報発信」の拠点施設

上方演芸の保存及び振興を図るとともに府民に上方演芸を学び親しむ場を提供し、もって大阪文化の発展に資する。大阪特有の「笑いの文化」の保存と振興の拠点

【機能】上方演芸に関する資料(各局の映像資料含む)を一堂に収蔵している全国唯一の施設

- ・資料の収集・保存・活用：展示、ライブラリー、レファレンスなど
- ・情報発信：上方演芸の殿堂入り知事表彰など

設立の基本理念

残す	「資料・演芸の保存」	収集・保存・整理
楽しむ	「演芸との出会い」	展示・ライブラリー・ホール・レッスンルーム・上方亭
挑戦する	「研究・実践・創作」	ホール・レッスンルーム・上方亭

2 ワッハ上方を取り巻く状況・今後の方向性

財政再建プログラム(案) 【他の府有施設等に移転、規模縮小】

- ・展示機能及び演芸ライブラリー機能のみ存続
- ・貸主との契約期間である平成 22 年度末までに移転

〔約 5 万件の寄贈資料の保存・展示は必要
現在の場所で、すべての施設機能を維持するには多額の費用が必要〕

府の役割の再点検(基本理念の整理)

「残す」 資料・演芸の保存(収集・保存・整理)

- ・大阪ならではの文化である「上方演芸」に関する資料を散逸させないために、収集・保存(ライブラリーを含む)する全国唯一の施設であり、収集した資料を府民共有の財産として展示することは大阪府が担うべき機能

「楽しむ」 演芸との出会い

- ・上方亭は、小学生や修学旅行生が上方演芸の楽しさを知るきっかけとして、資料と併せて生の演芸に触れるとともに、展示室への集客に必要不可欠な機能
- ・ホール・レッスンルームにおける公演については、民間プロダクション等において実施されており(例：NGK、天満天神繁昌亭等)、民間に委ねるべき機能

「挑戦する」 研究・実践・創作

- ・演者の育成や発表の場の提供については、上方演芸の振興に大きな役割を果たしてきたが、民間においても果たしている(NSC、M-1GP等)機能であり、行政が保有する必要のない機能

高額な施設運営費(費用の大幅な圧縮)

建物賃借料

- ・現地縮小案では、家主(吉本興業)の協力により、2.8 億円の賃借料を圧縮可能
- ・移転縮小案では、移転費用(原状復旧・展示・移転)が別途必要

管理運営費(指定管理委託料)

- ・現地縮小案では、集客数を引き上げるにより、管理運営費の圧縮が可能

上方演芸資料館のあり方について

	現在 (H20)	現地存続 [ホール民営化] (案)	府有施設等へ移転・縮小 (案)
7階	収蔵庫	(行) 収蔵庫	
	レッスンルーム	(民) レッスンルーム	
6階	事務室ほか	(行) 事務室	
		(民) 事務室	
5階	ホール	(民) ホール	(行) 事務室
4階	・展示室 (小演芸場) ・ライブラリー	(行) 展示室 (小演芸場) ・ライブラリー	(行) 展示室 (小演芸場) (行) 収蔵庫
特記	・多額の費用が必要 賃借面積 3,592 m ²	・ホール・レッスンルームは吉本に返却 (H21 は要協議) ・日本唯一の演芸ライブラリーは継続 賃借面積 2,000 m ²	・関係者の協力を得られずライブラリー機能は廃止、展示室は機能ダウンの可能性 必要面積 約 1,700 m ²

(1) ホール及びレッスンルームは民営化
大阪府は資料の保存・展示機能に特化

(2) 賃借料のさらなるプライスダウン
現行賃貸料 278,128 千円 (年額・共益費・税込み)

(3) 管理運営費 (指定管理委託料) は縮減
現行委託料 119,462 千円

1 移転先

府有施設等

2 経費 (想定)

H21 393,300 千円
(・家賃 278,100)
(・運営 115,200)

H22 566,800 千円
(・家賃 278,100)
(・運営 115,200)
(・移転 173,500)

H23~
管理運営費
91,500 千円
+ 共益費
+ 移転先改修費

検討資料

(1) 各案の比較

現地存続（ホール民営化）案	府有施設等へ移転縮小案 （府庁周辺を仮定）
<p>立地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かつて「道頓堀五座」があり上方演芸ゆかりの地である ・NGKやBase ヨシモトと隣接 ・地元との連携（道具屋筋商店街の修学旅行生の体験事業、上方芸能まつり、スタンプラリー等） ・同一ビル内のホールとの連携が可能 <p>在阪放送局の協力を得られる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライブラリーへの資料提供の理解 	<p>立地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪城や歴史博物館と隣接 ・本館に美術館や博物館的機能を集約した場合の相乗効果

(2) 入館者アップに向けての方策（案）

<p>NPOとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・営業セールスの拡大、営業スタッフの育成 地元、教育関係、観光関係、医療・福祉機関へのアプローチ、府市文化施設との協調拡大 ・魅力あるコンテンツの開発と行き届いたサービスの向上（リピーターの獲得） 集客イベントの充実、体験型展示の充実、スタッフのスキルアップ等 ・機器の補修 入館者 + 18,000人を見込む <p>吉本との連携</p>
